

本格的殺陣の爆笑コント



チャンバラトリオ

文化庁芸術祭優秀賞の音楽漫才



平和ラッパ・梅乃ハッパ

誰にも真似のできない  
コマの曲芸



伏見 紫水

平成11年(1999年)

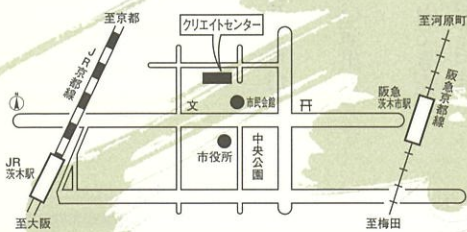
**6/10**

**【木】18:30開演**

(18:00開場 20:30終演予定)

**茨木市クリエイトセンター  
センターホール**

阪急茨木駅から西へ徒歩10分 JR茨木駅から東へ徒歩10分  
市役所・市民会館北100m



# 上方の姉妹

かみがたのたいぎ



川上のぼる・じゅん

腹話術芸の創始者とその二世  
親子共演

世界で活躍する新感覚の奇術



深井洋正&キミカ



海老一 鈴娘

咲くやこの花賞の美人神楽

殺陣コント／チャンバラトリオ  
お囃子／なにわの会  
構成・司会／相羽秋夫  
奇術／深井洋正 & キミカ  
腹話術／川上のぼる・じゅん  
音楽漫才／梅乃ハッパ  
曲独楽／伏見紫水  
太神楽／海老一鈴娘

■入場料【全席指定席】

1階席:一般=3,500円 割引=2,000円

2階席:一般=2,500円 割引=1,500円

※割引対象=65歳以上、24歳以下、障害者及びその介護者の方

■チケットの取り扱い[3/23日発売]

(財) 茨木市文化振興財団 ☎0726-25-3055

※割引チケットは文化振興財団のみで取り扱います

ローソンチケット ☎06-6369-6633 [Lコード= 53455]

チケットぴあ ☎06-6363-9999

■お問い合わせ・電話予約

**☎0726-25-3055**

(財) 茨木市文化振興財団

月~金 9:00~17:15 [土、日、祝日は休業]

主催: 財団法人茨木市文化振興財団 〒567-0888 茨木市駅前四丁目6番16号 クリエイトセンター1F

「からだ」で楽しませる芸のスペシャリストたち

寄席文字 / 橘 右佐喜

# 上方の体技

かみがたのたいぎ

～からだで楽しませる芸のスペシャリストたち

平成11年6月10日(木) 18:30 / 茨木市クリエイトセンター・センターホール

## 「体技」は稽古が「大儀」ですが、

## 「大義」ある芸なのです



相羽秋夫

(演芸評論家  
大阪芸術大学教授)

「体技」という言葉は、余り聞きなれない表現ですが、「話芸」という言葉に対比して使われています。

一昨年、同じステージで、「上方の話芸」という催しを開いたところ大好評でしたので、そのシリーズ第二弾として、「上方の体技」を開催することになりました。

「話芸」は、落語、講談、浪曲といった、おしゃべりで皆さんを楽しませる芸のことです。

「体技」は、今回ずらりと顔を並べた芸のように、体の技で芸の極致を味わっていただくものです。

しかも、演者は関西を中心に活躍している人ばかりで、まさに上方らしさの横溢した至芸が展開されること受け請いです。

それでは、それぞれの芸域と演者の横顔をご紹介します。

トップバッターは、「太神楽」と呼ばれる曲芸の一種で、演ずるのは海老一鈴娘さんです。

「太神楽」とは読んで字のごとし、神様に楽しんでもらう奉納芸が原点です。

日本古来の伝統的な様式美を基調に置いて、優雅に展開します。

鈴娘さんは、そうした古典芸を、母の鈴子さんから受け継いでがんばっている若くて美しい女性です。つい最近、大阪市制定の「咲くやこの花賞」を受賞して張り切っています。

続くは、「曲独楽」の伏見紫水師匠です。

この芸も曲芸の一つで、江戸時代以降、二百年以上の歴史がある伝統芸です。

コマの芯棒を直すだけで何年もかかるという、習熟のいる芸で、そのために後継者が育たないのです。

紫水師は十七歳で初舞台を踏み、この道一筋にやっけてこられました。今や「曲独楽」の第一人者として、伝統の灯を必死で守っている師匠の芸に胸が打たれます。

次は、「音楽漫才」の平和ラッパ・梅乃ハツバ師です。

ラッパと言えば、「天王寺の亀が」の名セリフで有名ですが、それは先代。当代のラッパ師はギターを巧みにこなす「音楽漫才」の名手なのです。

相方のハツバ師も、ルーキー新一門下のベテランで、ギターをこなしてはトップクラスの腕前です。文化庁芸術祭優秀賞の名演技をお楽しみ下さい。

続いては、「腹話術」の川上のぼる・じゅん親子です。

日本に始めて「腹話術」という芸を確立したのは、こののぼる師匠です。今や一人以上と言われる腹話術の演者の頂点に立つ人です。平成九年、芸能生活五十周年のリサイタルを、今回と同じステージで成功させました。

じゅんさんは、昨年デビューしたばかりですが、のぼる師匠の二男で、早くもセンスの良さを発揮して注目を集めています。

「奇術」の分野から、深井洋正&キミカのお二人が参加してくれま

す。お二人は、世界中を股にかけて活躍するマ

ジシャンで、日本人離れした感覚の舞台を見せてくれます。

「奇術」の世界は日進月歩、新しい演出が次々と登場しています。

色あせたマジックを長い間見せられてきた我々にとって、お二人の芸はきつと目をさませしてくれることでしょう。

トリは、「殺陣コント」のチャンバラトリオの皆さんです。

トリオと言うのに、なぜかカルテット(四人)の構成です。

最近メンバーが入れ替わり、「カシラ」と呼ばれる南方英二師と、「リーダー」の山根伸介師を軸に、以前とは一味違ったコントになりました。

殺陣の方も、東映映画の時代劇仕込みの本格的なものです。

と、いった各演者のつなぎに、見どころなどの解説を、この私がさせていただくことになっております。

こうした芸が一堂に会することはめったにありません。

「体技」の持つ本当の魅力を余すことなくお伝えするこの機会を、どうぞお見逃しのないようにお願いします。

タイトルにも示したように、「体技」は稽古がつらく「大義」な芸域ですが、日本の芸能の「大義」を貫く芸なのです。

どうか、万雷の拍手を持って、「上方の体技」をご声援下さい。